

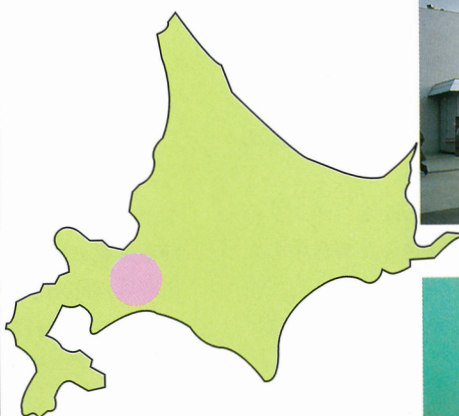
道央を訪ねて

研究第一部 主事 長谷川美佳
研究第二部 主事 平野 由美

11月下旬、北風吹く寒い冬の日、鮭の不思議な魅力に興味をそそられ、私達は北海道の地へ降り立った。まず、千歳川のサケのふ化事業に大きく貢献している事で有名なインディアン水車(写真①)を目の当たりにして、実際に鮭が掛かる迫力に圧倒された。そして平成6年9月に完成した『千歳サケのふるさと館』(写真②)では、淡水魚水槽としては日本一を誇るサケ大水槽(写真③)をはじめ、鮭の成長過程が一目でわかる大小20基の水槽の中を優雅に泳ぐ魚たちに胸を踊らされた。ここの一番のおすすめは、ガラス越しに直接千歳川の川底を見学できる地下観察室(写真④)で、この日運が良い事にこの時期にしては珍しく数多くの鮭の遡上を見る事ができた。また館内が明るく、水槽も自然の日光を取り込む工夫がなされているためとても見やすいように感じた。鮭の遡上の時期だけでなく一年中いろいろな魚たちと出会える魅力ある場所である。



写真①



写真②



写真③



写真④

翌日、平成2年に「ふるさとの川モデル事業」に認定された恵庭市を流れる^{もいざりがわ}茂漁川(写真⑤⑥)を訪れた。茂漁川の名は、アイヌ語の“モイチャン(鮭が産卵する小川)”が語源であり、その昔、たくさんの鮭が遡上する豊かな川であったに違いない。昭和30年代から40年代にかけて直線的なコンクリート護岸の河川に改修されたが現在この川の持つ安定した流量と良好な水質や周辺の豊かな自然を生かし、「素顔の水辺づくり」をテーマに自然にやさしい水辺づくりをすすめている川面にクレソンが生い茂り、水辺には自然を生かした公園等、人々の心を和ませる憩いの水辺として重要な役割を果たしているように感じた。これから訪れるであろう雪の日にも耐えて、春にはきれいなクレソンの花を咲かせ私達の目を楽しませてくれるに違いない。



写真⑤



写真⑥